令和４年度　全国学力・学習状況調査

及び福岡県学力調査の結果

令和４年９月２１日
福津市立勝浦小学校

令和４年度の全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の結果が届きました。福津市の公表方針に基づき、ホームページにて結果の公表をいたします。なお、学力調査の結果は、「学力の特定の一部分」です。本校の教育目標「勝浦に学び、夢に向かって未来を創る子どもの育成」及び重点目標「地域の学びを伝え合うための工夫ができる子ども」の達成状況を見取る一つの資料としてお考えください。

調査の正答率（標準化得点）について

下記は、全国または県の平均正答率を 100 とした標準化得点による比較です。

〈６年全国調査〉

○　国語…全国値を「やや上回っている」
○　算数…全国値と「ほぼ同じ」
○　理科…全国値を「やや下回っている」

〈５年福岡県調査〉

○　国語…福岡県基準と「ほぼ同じ」
○　算数…福岡県基準と「ほぼ同じ」

○　全国調査（６年）・福岡県調査（５年）ともに、標準化得点が全国・県と大きな差はなく、おおむね良好と言えます。
○　難しい記述式の問題も、無答率が低く、粘り強く問題解決に取り組み、自分なりの回答をしていった根気強さや挑戦意欲がうかがえます。
○　身に付けた知識・技能を活用して問題を解く力が育ってきています。
●　問題の意味を充分に読み取れずに、誤答する例もあります。文章の前後や図表とのつながりを理解する力が必要です。
●　論述式の問題の正答率から、表現する事柄を見つけ、筋道立ててつなぎながら、書いたり話したりする力が必要と考えます。
●　生活実感を伴う問題の設定や知識・技能の活用が必要です。

学習意識調査の結果

全国調査における、児童の学習意識調査（アンケート方式）の結果をまとめたもので

す。本校の重点目標「地域の学びを伝え合うための工夫ができる子ども」に強く関連するものをピックアップして肯定的評価を比較します。

○　将来の夢や希望をもっていますか。

- ➢　全国・福岡県の割合を**やや上回っています**。昨年度取り組んだキャリア教育の成果と考えています。

○　自分にはよいところがあると思いますか。

- ➢　全国・福岡県の割合を**やや下回っています**。「当てはまる」と答えた割合も多いのですが「どちらかと言えば当てはまらない」と答えた子も多くなっています。

○　今住んでいる地域の行事に参加していますか。

- ➢　全国・福岡県の割合を**上回っています**。地域と共働の教育活動の成果と言えます。

○　地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

- ➢　全国・福岡県の割合を**上回っています**。子どもが主体的に地域に関わる学習の成果と言えます。

○　５年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか。

- ➢　全国・福岡県の割合を**やや上回っています**。子どもの学習への主体性の高まりを示しています。

○　自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

- ➢　全国・福岡県の割合を**上回っています**。授業における交流活動の充実ぶりを示しています。

○　５年生までに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

- ➢　全国・福岡県の割合を**上回っています**。１人１台タブレットの活用等、表現活動も充実してきました。

○　学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか。

- ➢　全国・福岡県の割合を**やや上回っています**。主体的・対話的で深い学びをさらに充実させていきたいと思います。

○　８項目中、７項目で「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等の肯定的評価をした児童の割合は、全国や福岡県の割合を上回っています。福津市のめざす子ども像、及び本校の重点目標の達成状況は、おおむね良好ととらえることができます。 ○　とくに、「地域行事への参加」や「地域や社会をよくするために考える」ことについては、肯定的評価の割合が大きく上回っています。地域との共働の中で育まれ

た関心やふるさとを愛する心がこのような数値になっているととらえることができるでしょう。

- 「自分にはよいところがあると思う」という項目が、肯定的評価と否定的評価とに分かれています。地域との学び（共学）の中で「自己有用感」（他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚）を感じることのできるカリキュラムへ開発・強化・重点化をする研修を進めていきます。

今後に向けて

全国学力・学習状況調査の結果については、５月に自校採点を行い、既に改善に向けてプランを立て実行にうつしています。その観点は、下記の３つです。

① 問題の意味や他者が伝えている内容を読み解けるよう、読書活動に力を入れたり文章の前後や資料とのつながりを考えさせる授業を行ったりする。

② タブレット等も活用しながら、表現することを見つけ、筋道立てて書いたり、話したりする表現活動やプレゼンテーションを位置付ける。

③ 教科横断的な指導を行い、生活実感を伴う問題の設定や知識・技能の活用を意識して授業を行う。

また、第３回学校運営協議会で学校と地域・保護者の思いをマッチングさせ、子どもの自己有用感を高めるカリキュラムづくりに取り組んでいます。今後、実践を通してカリキュラムの開発・強化・重点化を行い、子どもたちが地域との伝え合いの中で、自分を価値ある存在として受け止められるよう力を尽くしていきたいと考えています。